

欧州景気概況(2021年8月)

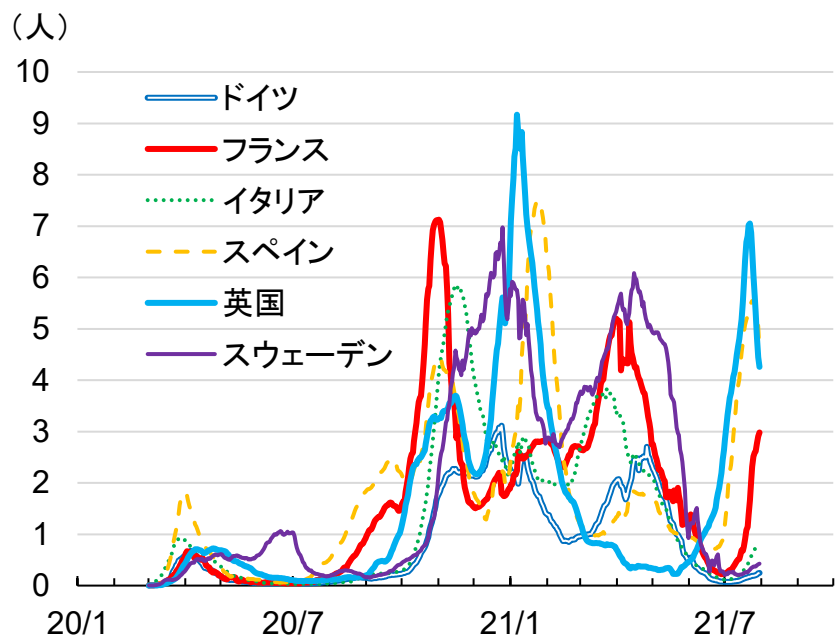
2021年8月3日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

欧州でもインド由来の変異株(デルタ株)が蔓延、ワクチン接種で先行する英国では感染者数が急増したが、行動制限を強化せずにピークアウトしている。大陸ではスペインやフランスなど地中海沿岸部で感染者数が急増しているが、病床がひっ迫していないことから行動制限は強化されていない。

人口一人当たりの新規感染者数



(注) 7日間移動平均

(年、月)

(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	6月30日で「緊急ブレーキ」措置が失効、各州で指標に応じた行動規制緩和を実施。
フランス	6月17日にマスク着用義務撤廃(除くイル・ド・フランス)。6月20日に夜間外出制限を撤廃。一部の国を除き入国が自由(日本人も出入国が自由、ただしワクチン接種証明か陰性証明書などが必要)。
イタリア	夜間外出禁止を撤廃。州を跨ぐ移動の制限も撤廃。各種商店・娯楽施設の再開(ただしダンスホール、ディスコは休止を継続)。
英国	イングランドが7月19日に行動制限の大部分を緩和。8月16日に隔離規制を緩和予定。スコットランドは8月9日に行動制限の全面解除を目指す。

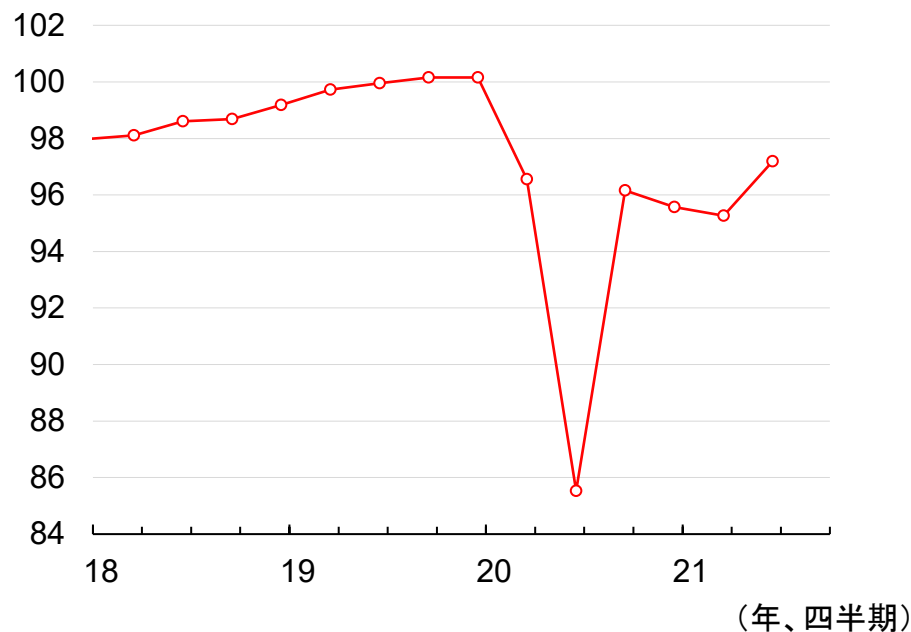
(出所) 各種報道

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年4-6月期の実質GDP(速報値)は前期比+2.0%と3期ぶりに増加に転じ、景気後退を脱却した。一方で最新7月の景況感指数は119.0と6ヶ月連続で上昇、景気回復していることを示唆している。しかし国ごとには、スペインやフランスなどで景況感の改善が一服するなど、ばらつきが見られる。

実質GDP

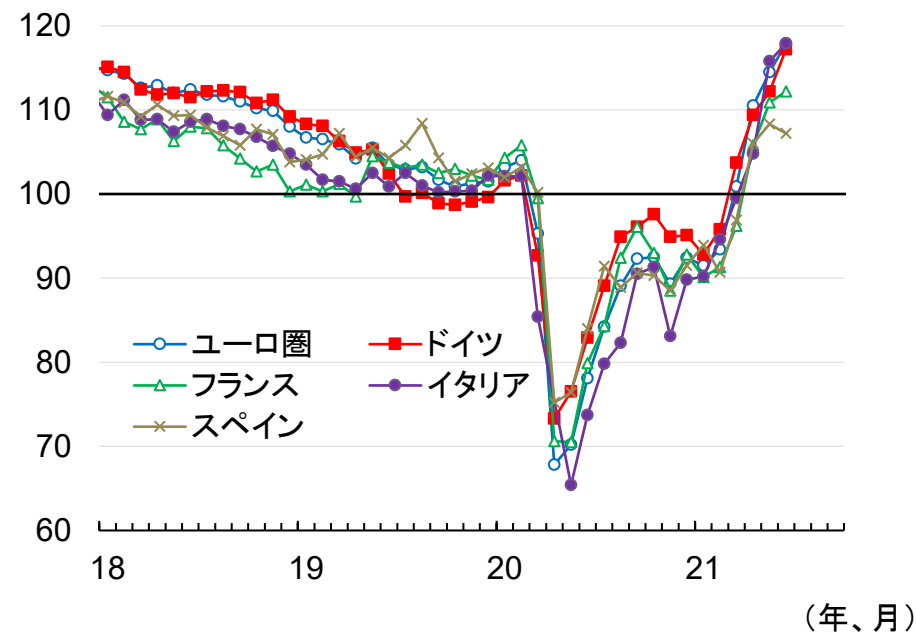
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

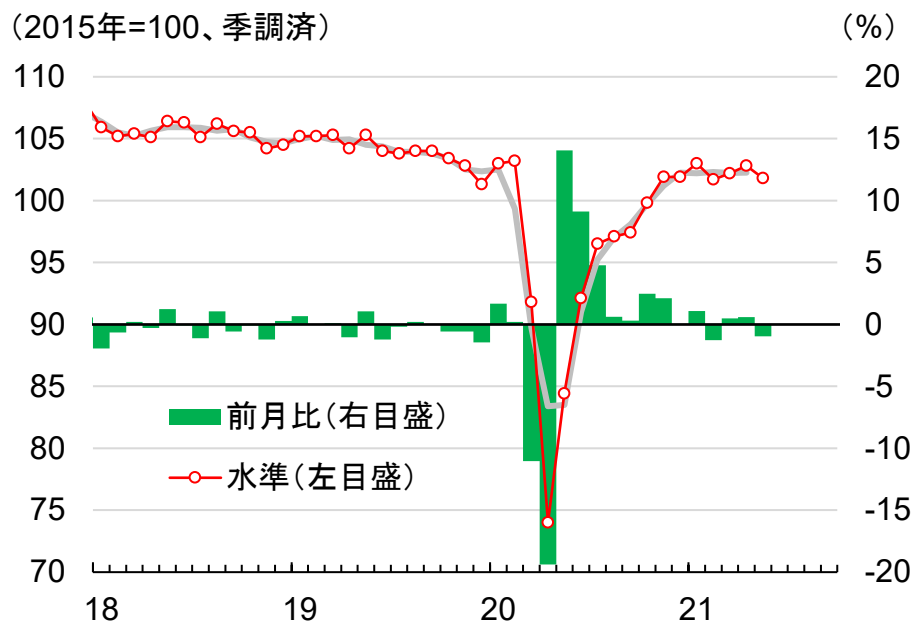


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は横ばい

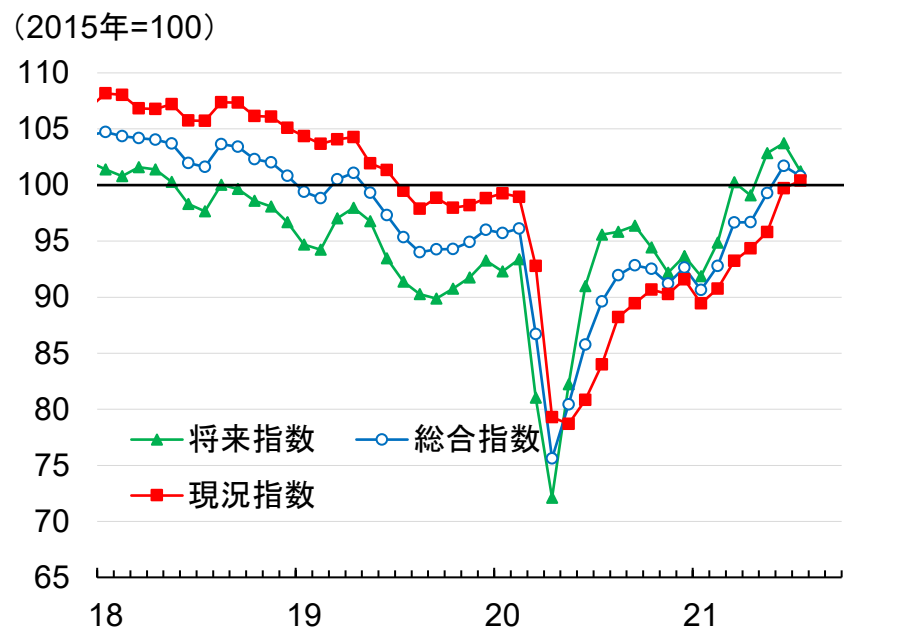
ユーロ圏の5月の鉱工業生産は前月比-1.0%と再び減少、均した動きは横ばいとなっている。世界的な半導体不足の影響を受けた自動車の不調が生産全体の重荷となっている模様。一方で、ドイツの7月のIfo景況感指数は100.8と1月以来となる低下。サプライチェーンを巡る懸念や新型コロナウイルスの感染拡大が背景。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

Ifo企業景況感指数



(出所) Ifo研究所

ユーロ圏景気概況③ 消費は回復している

ユーロ圏の5月の小売数量は前月比+4.6%と再び増加し、均した動きは回復している。一方で6月の新車販売台数は前月比-0.6%の年率847万台と、低位横ばいの状況が続いている。行動制限の緩和に伴い繰越需要が生じている一方で、半導体不足から新車の供給が停滞していることが、新車市場の不調につながっている模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

(年、月)

新車販売台数



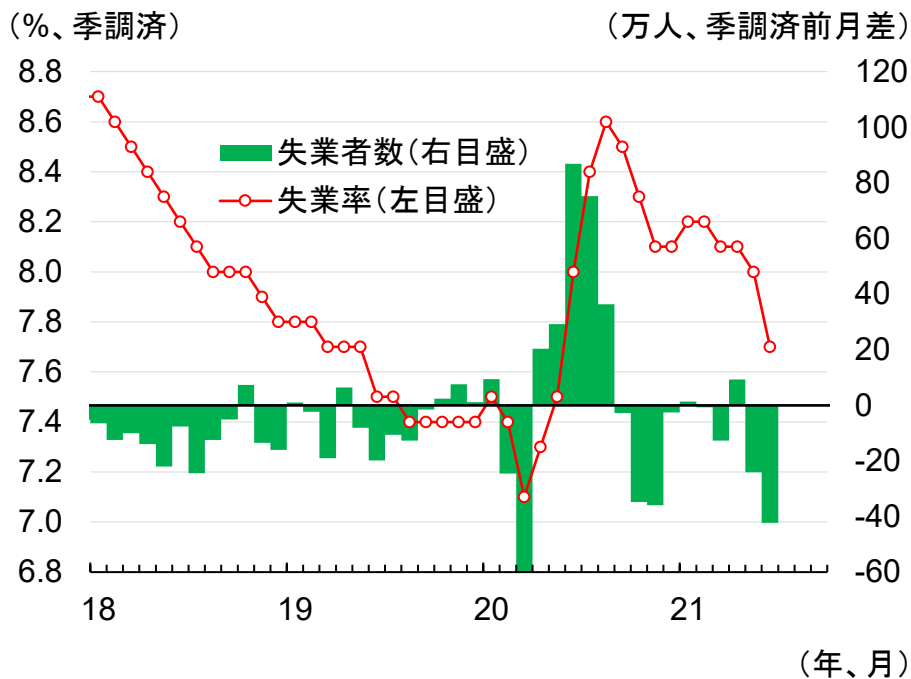
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

(年、月)

ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は緩やかに回復

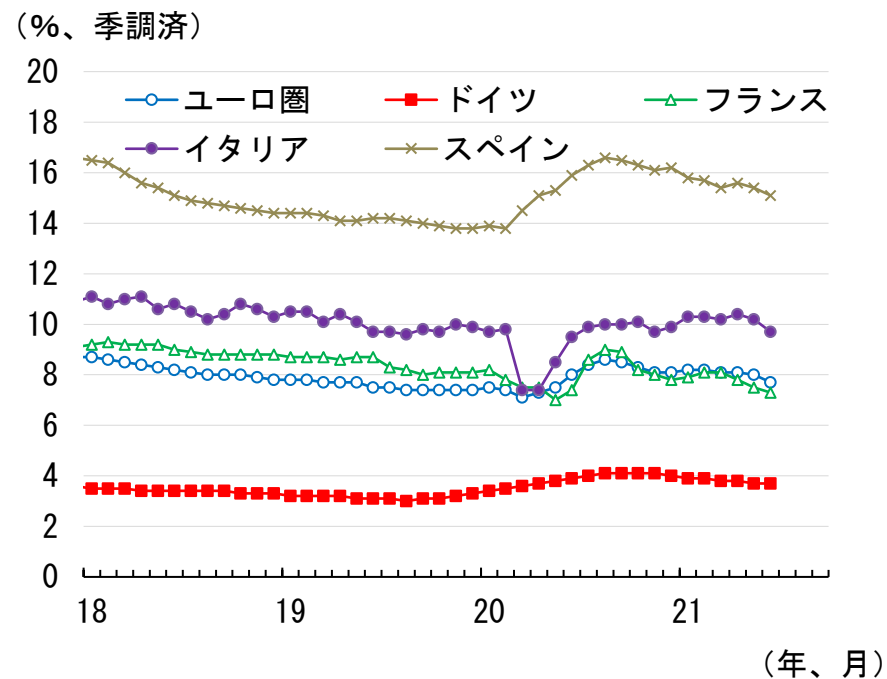
ユーロ圏の6月の雇用統計では、失業率が7.7%と2ヶ月連続で低下、失業者数は前月比42.3万人減と前月(同-24.1万人)から減少幅を拡げた。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツでは下げ止まりの動きもみられる。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

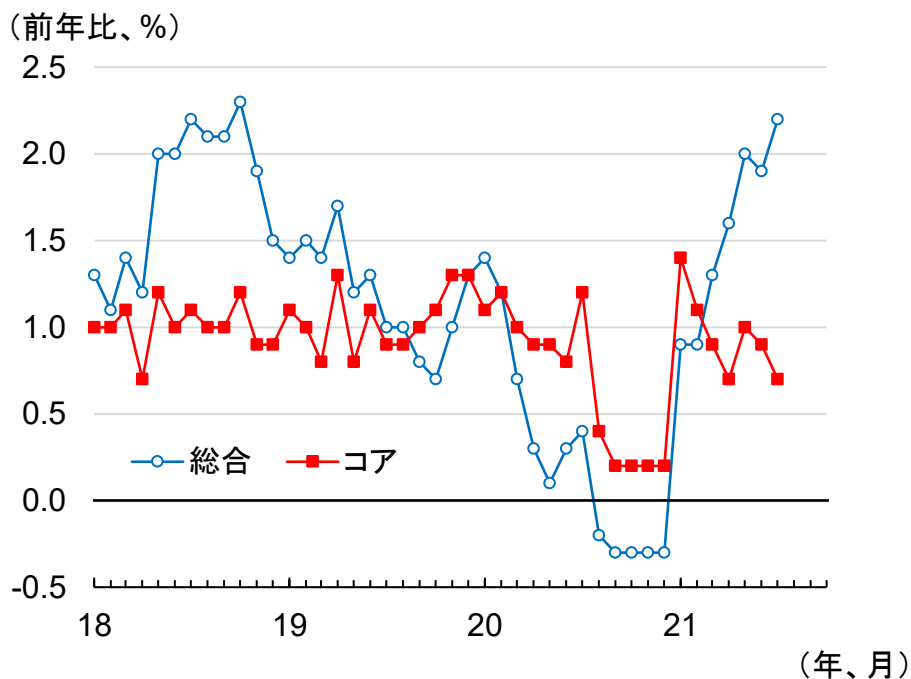


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速している

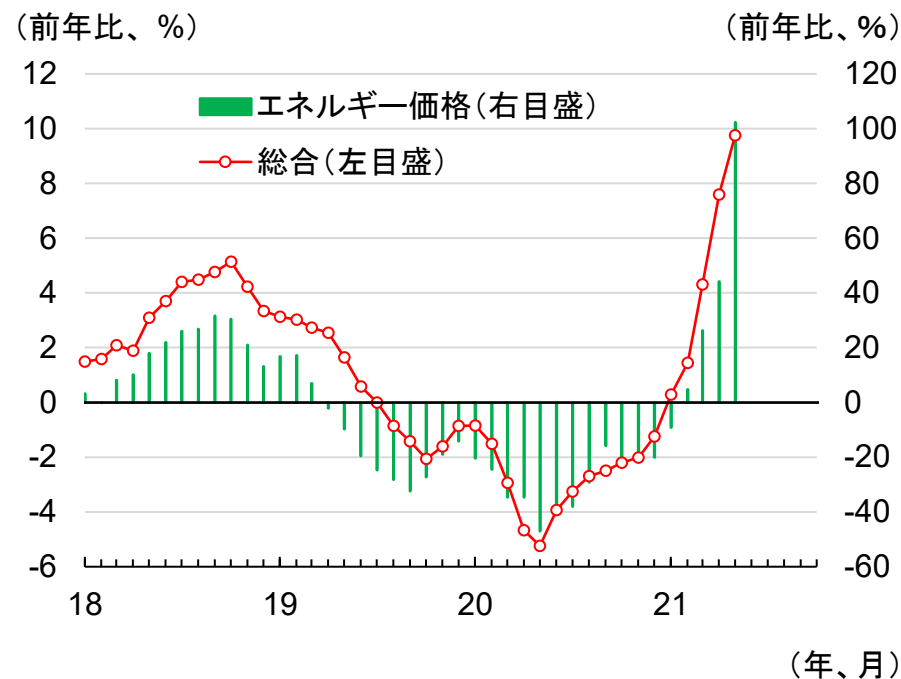
ユーロ圏の7月の消費者物価(速報値)が前年比+2.2%と再び加速、欧州中銀(ECB)のインフレ目標値(2.0%)を超えた。先行指標である生産者物価は5月時点で前年比+9.8%と、エネルギー価格の上昇が鮮明であることから、伸び幅の拡大が続いている。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは物価目標の一時的な上振れを容認へ

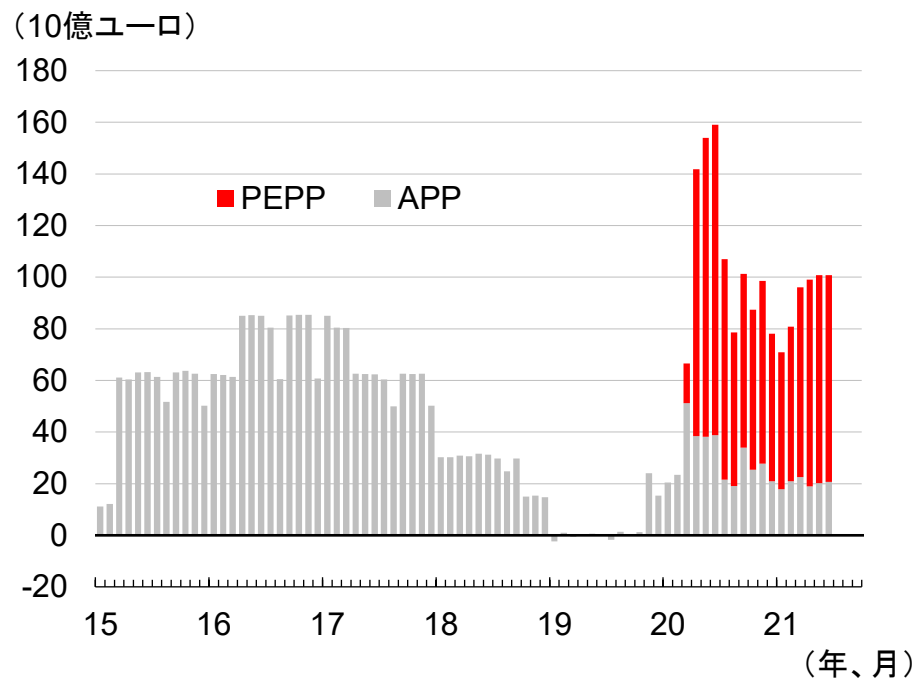
欧州中央銀行(ECB)は7月22日の政策理事会で、既往の金融緩和パッケージを維持した。一方ECBは7月8日に発表した『戦略レビュー』に基づき、7月22日の理事会で物価目標の実質的な柔軟化を図ると発表。2%を一時的に上回ったとしても金融緩和を維持する方針を示した。

ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要	
政策金利の据え置き	主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。
資産購入策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急対応プログラム(PEPP)での資産購入額を5,000億ユーロ増額して総額1兆8,500億ユーロに拡大。また期間を9ヶ月延ばして22年3月まで延長。再投資の期間も少なくとも23年末まで1年延長。 既往の資産購入プログラム(APP)は月額200億ユーロでの購入をオープンエンド型で継続。
資金供給策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急リファイナンスオペ(PETLRO)を21年に4回追加 預金金利(現在▲0.50%)をさらに0.50%ポイント割り引いた水準(現状▲1.00%)で行う期間3年の資金供給策(TLTRO3)は22年6月まで期間延長。

(出所) 欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

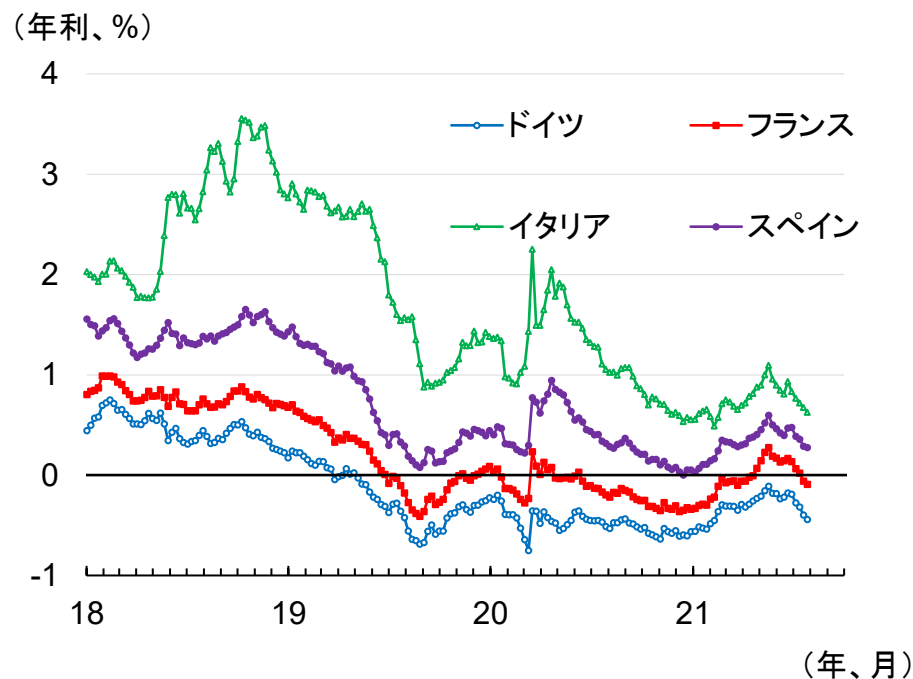


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は低下、株価は一進一退

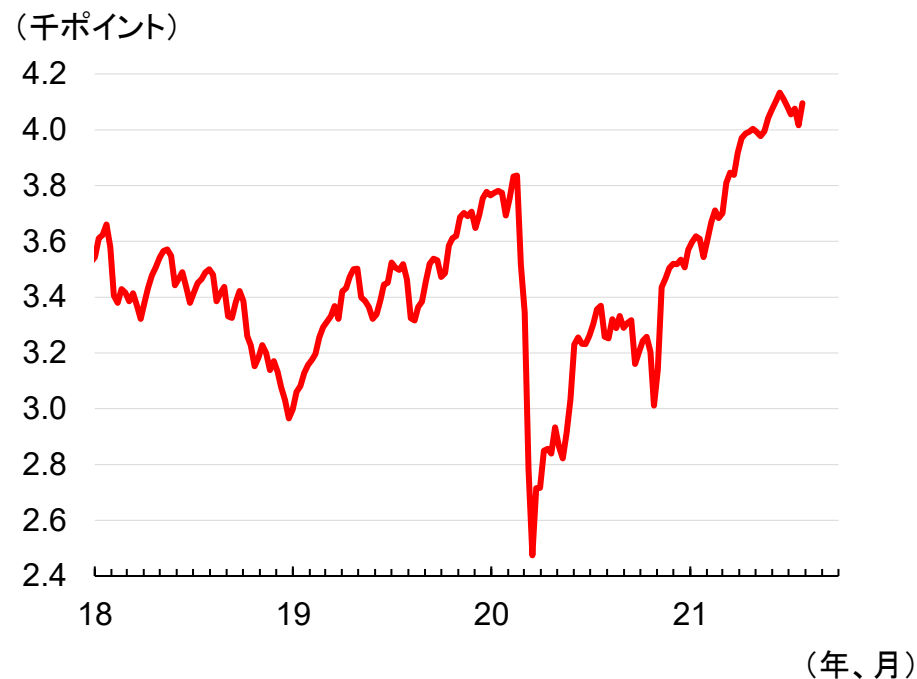
7月のユーロ圏の長期金利は低下した。インフレの加速が進む一方、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受けて安全資産である国債に買いが入った。株価は一進一退となった。好業績が買い材料になったが、新型コロナの感染拡大が売り材料になった。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)

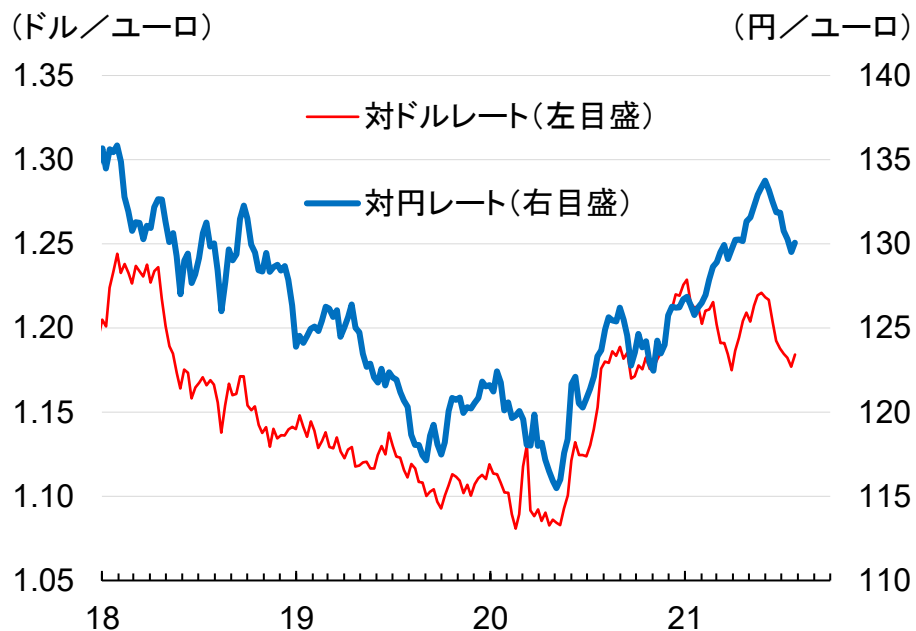


(出所) STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドルでは一進一退、対円ではユーロ安

7月のユーロ相場は対ドルで一進一退、対円ではユーロ安が進んだ。対ドルではECBが物価目標の実質的な柔軟化を表明し、低金利政策を長期化するとの見方が強まり、ユーロの上値を抑えた。一方、米国も利上げ観測が後退し、ユーロ相場を下支えした。対円では小幅ながらも世界的に進んだ円高の流れを受けてユーロ安が進んだ。

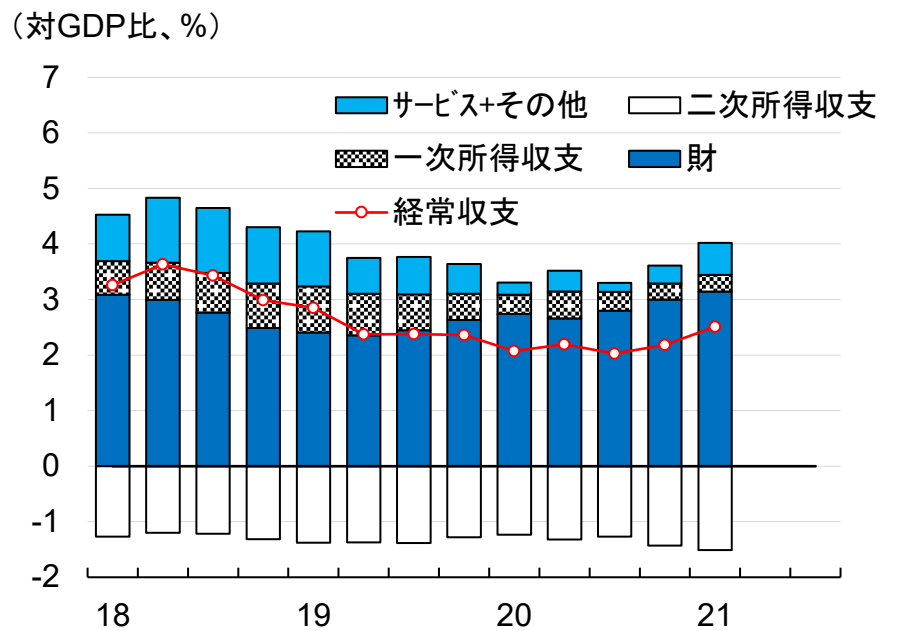
ユーロ相場



(注)週次レート
(出所)ECB

(年、月)

国際収支



(出所)ECB

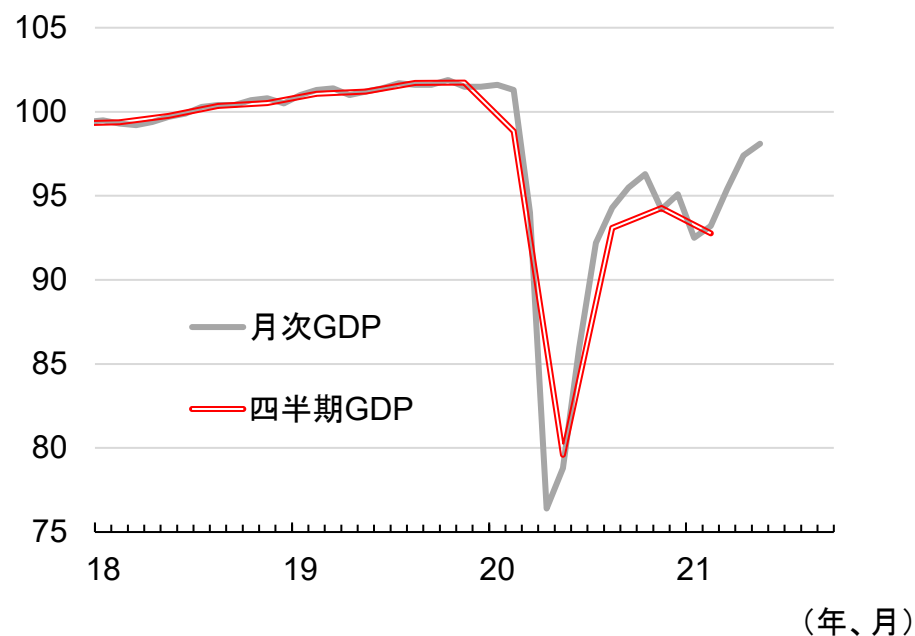
(年、四半期)

英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年1-3月期の実質GDPは前期比-1.6%と、20年4-6月期以来となるマイナス成長になった。一方、5月の月次実質GDP(粗付加価値ベース)は前月比+0.7%と前月(同+2.1%)から増勢を弱めたが、回復が続いている。イングランドでは7月19日に大半の行動制限が解除されており、景気回復に弾みがつくと期待される。

実質GDP

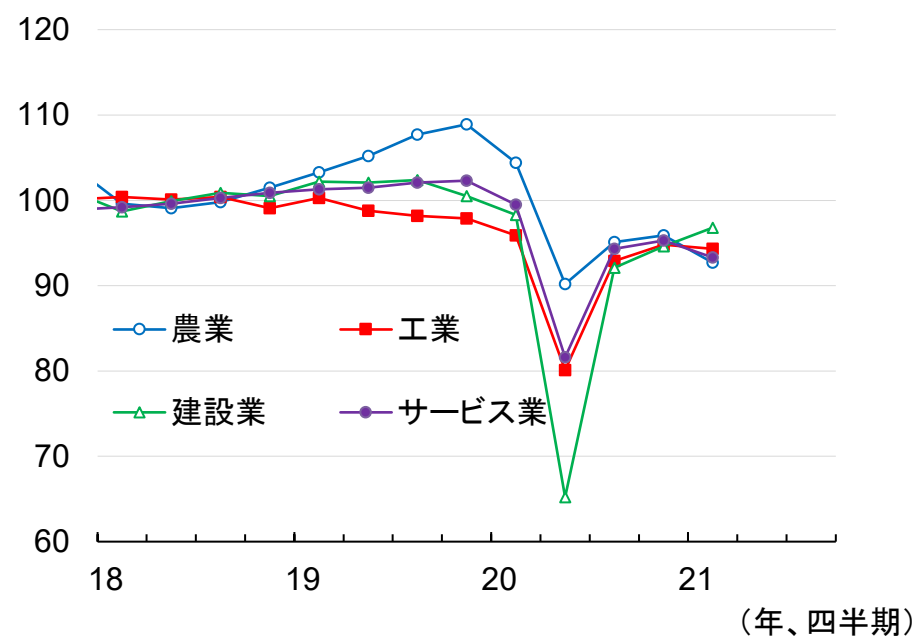
(2018年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2016年=100、季調済)

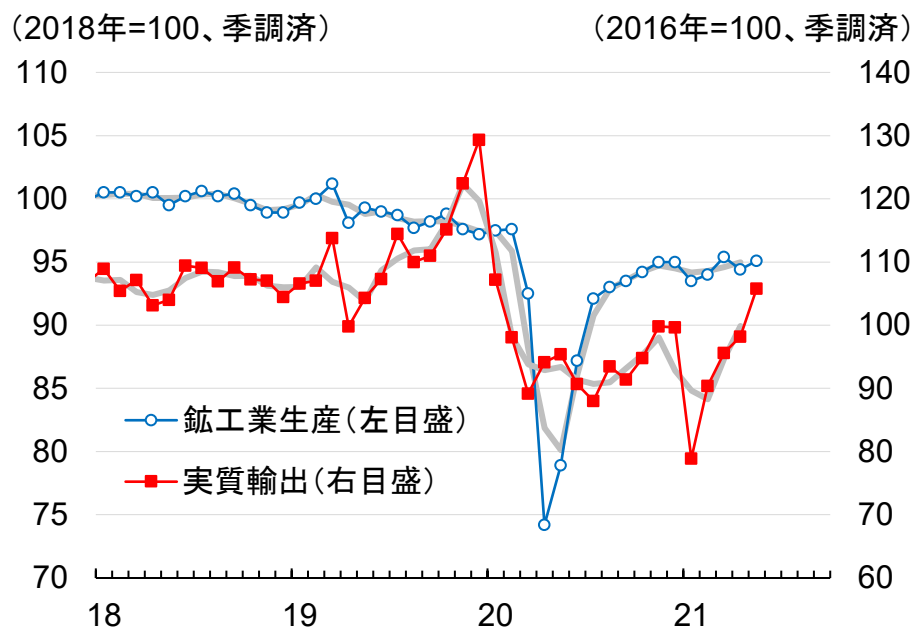


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は横ばい

英国の5月の鉱工業生産は前月比0.7%と再び増加、均した動きは横ばいとなっている。一方、同月の実質輸出は同+7.8%と増勢が再び加速し、トレンドは回復している。また5月のサービス生産も前月比+0.9%と増勢が4月(同+2.8%)から鈍化したが、均した動きは回復している。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は増加している

英国の6月の小売数量(除く石油)は前月比+0.4%と再び増加、均した動きも増加基調を維持している。また同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+28.0%の18.6万台と3ヶ月連続で伸び率が低下した。前年比では引き続き高い伸び率を記録しているが、英国でも半導体不足の影響で新車の供給が停滞している模様。

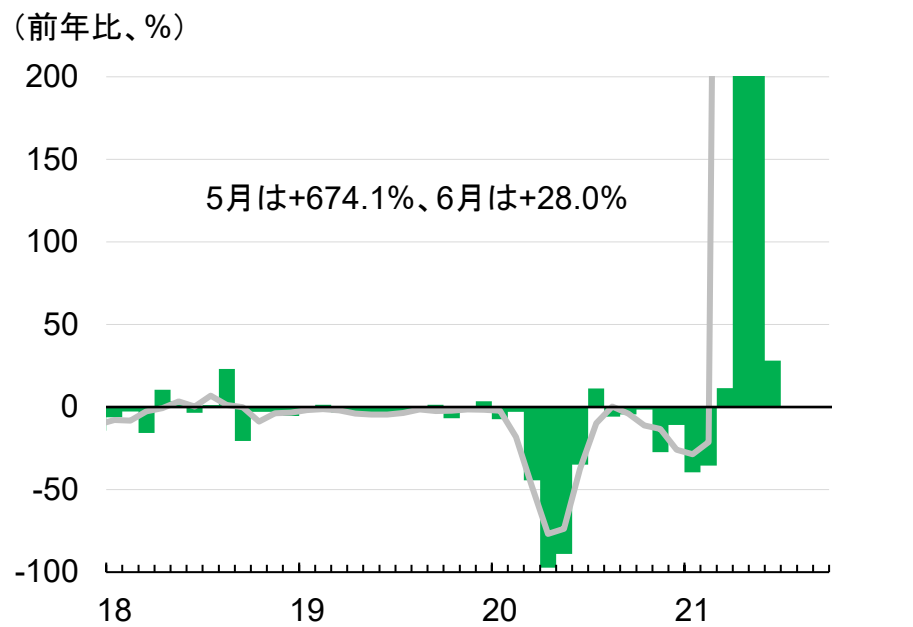
小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

新車販売台数(乗用車)



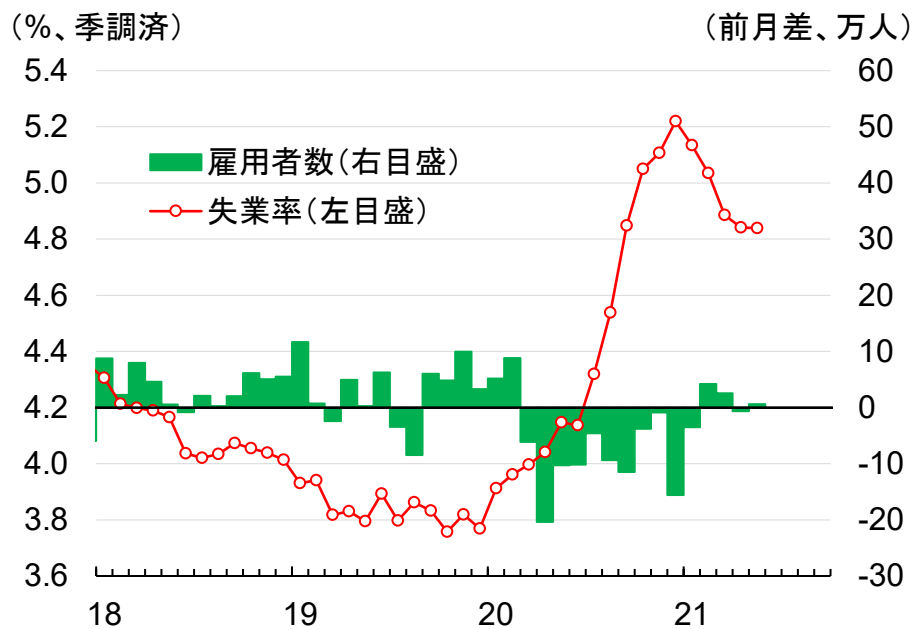
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

(年、月)

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

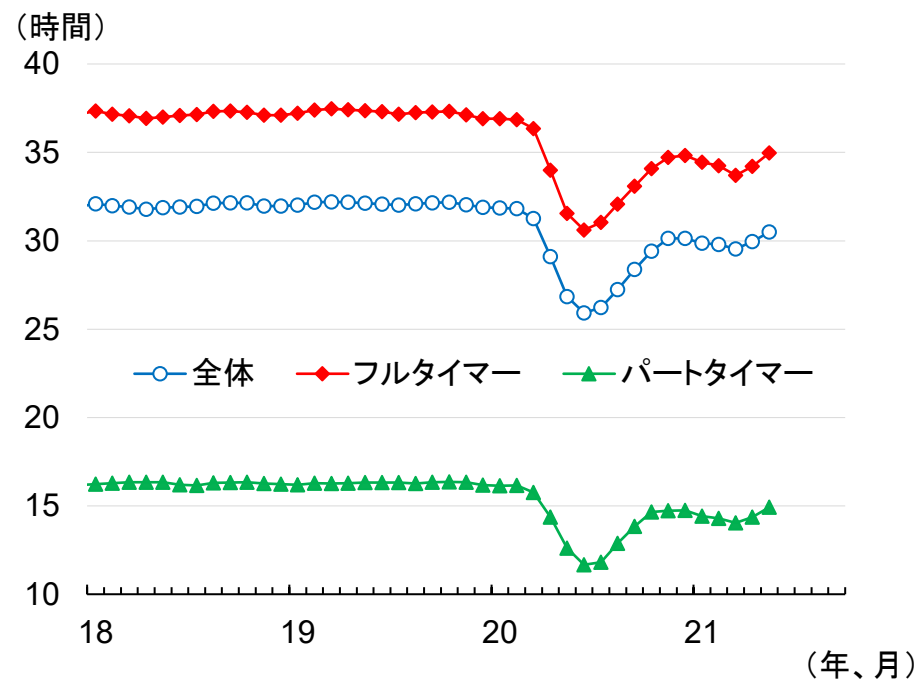
英国の5月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率は4.8%と前月から横ばい、雇用者数も前月比+0.6万人にとどまり、雇用は改善が足踏みしている。一方で、平均労働時間は30.5時間と2ヶ月連続に増加した。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所)ONS

平均労働時間

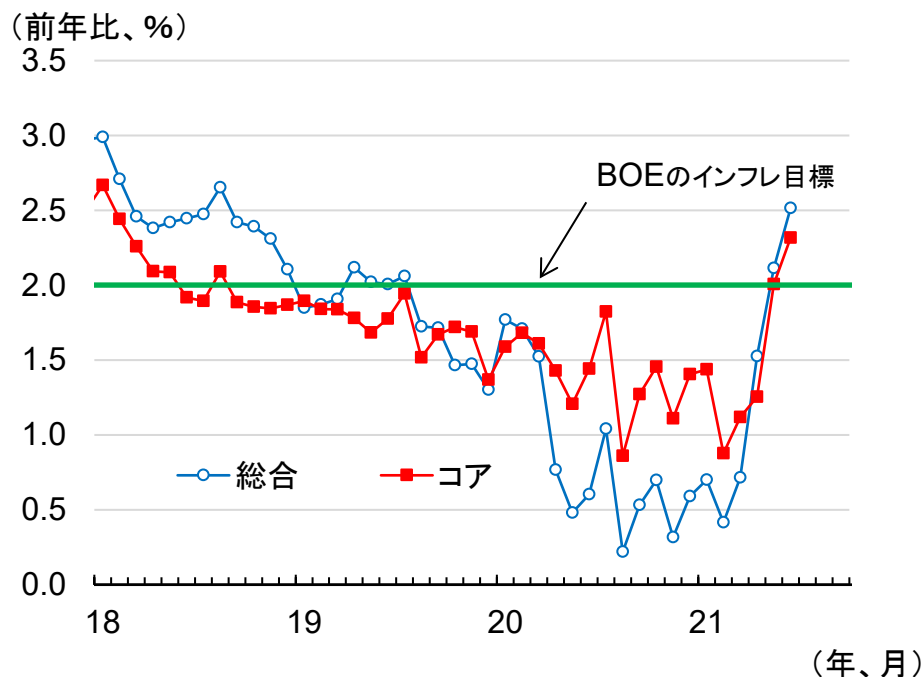


(出所)ONS

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速している

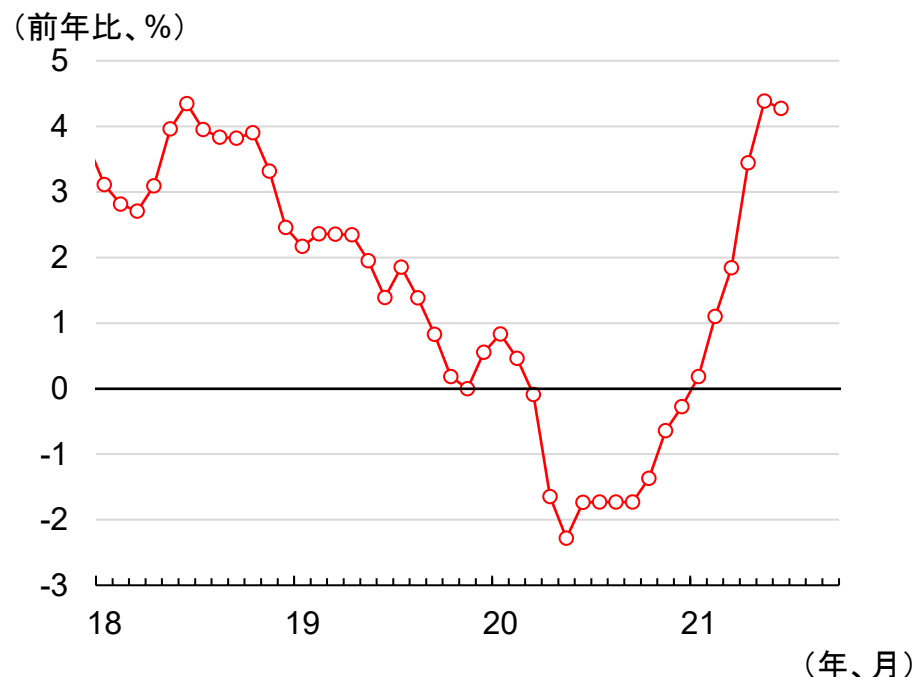
英国の6月の消費者物価は総合指数が前年比+2.5%と伸び幅の拡大が続き、イングランド銀行(BOE)のインフレ目標を上回っている。先行指標となる同月の生産者物価は同+4.3%と5ヶ月ぶりにプラス幅が縮小したが、引き続き高止まりしている。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

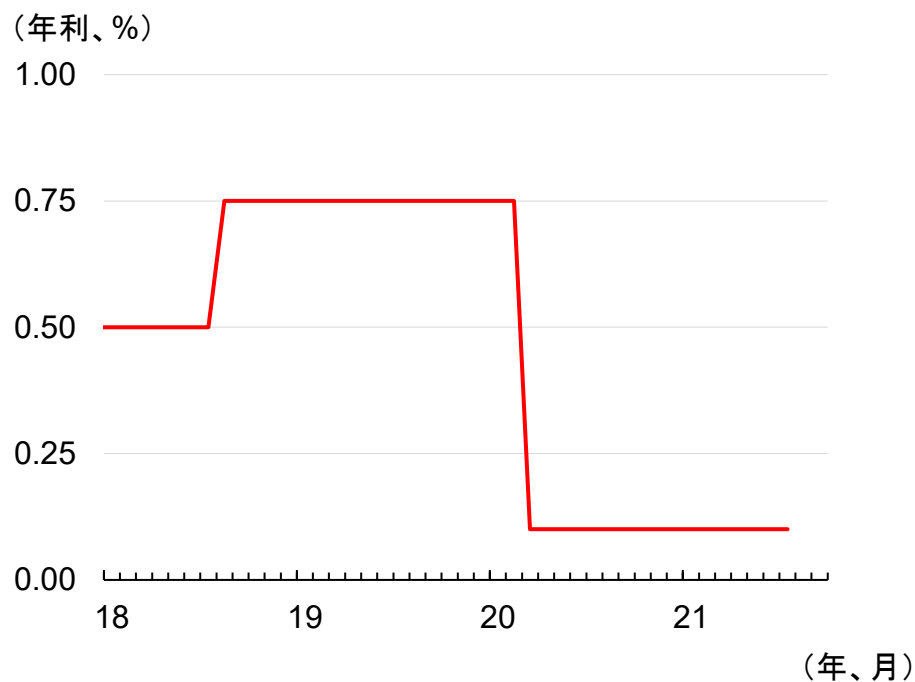


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは既往の金融緩和パッケージを維持

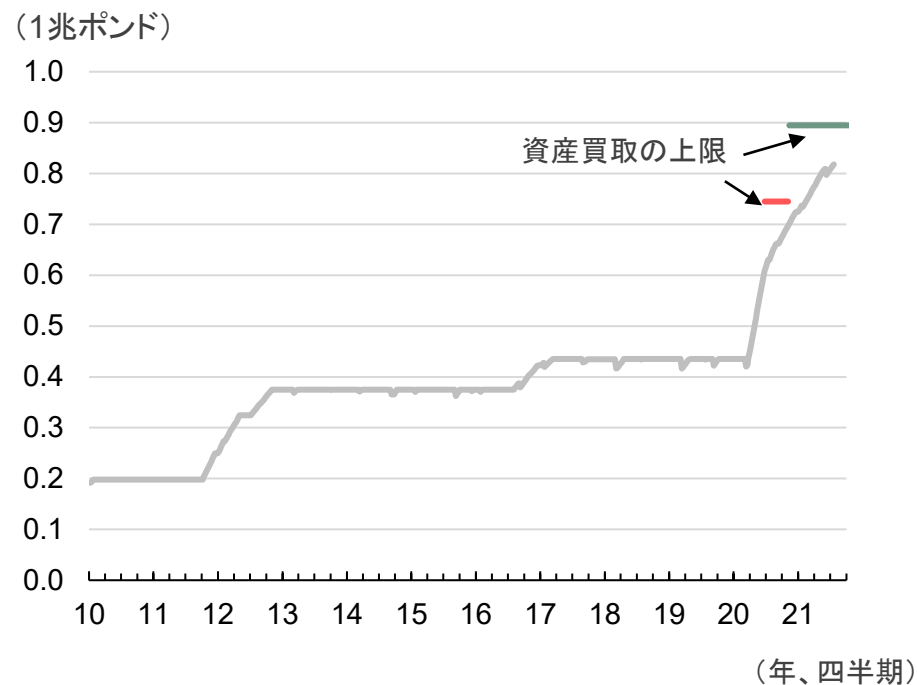
英中銀(BOE)は6月24日の金融政策委員会(MPC)で既往の金融緩和パッケージを維持し、政策金利(バンクレート)を0.10%に、資産買取プログラムの規模を8,950億ポンドにそれぞれ据え置いた。BOEは既に資産購入のテーパリング(段階的減額)のプロセスに入っている。次回MPCは8月5日を予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

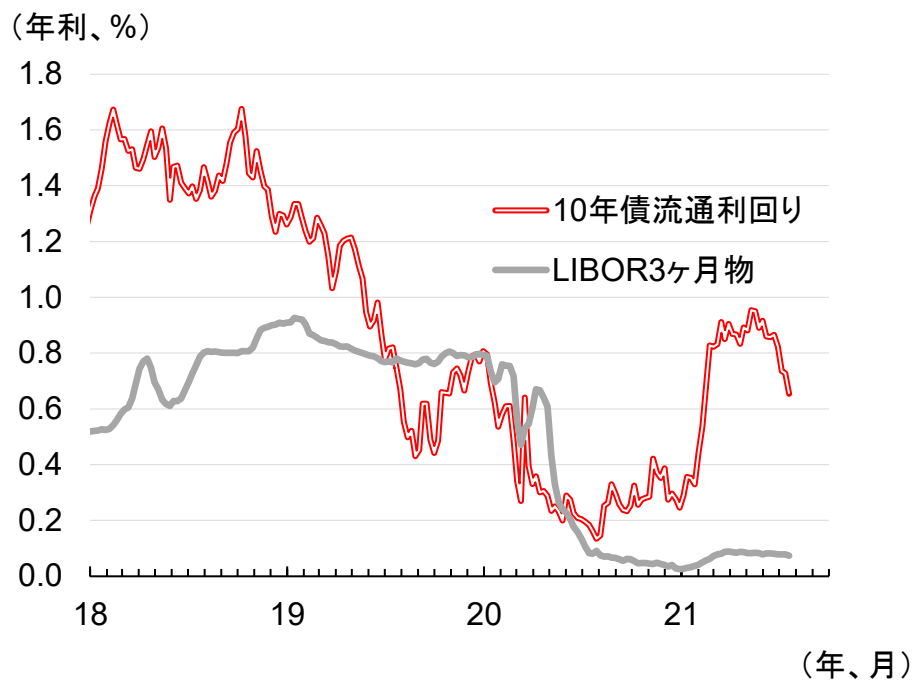


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 長期金利は低下、株価は下落

7月の英国の長期金利は低下した。米金利の低下やBOEの利上げ観測の後退が金利の低下要因になった。一方で7月の株価(FT100指数)は下落した。新型コロナウイルスの感染拡大が嫌気され、相場の重荷となった。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)



(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドル・対円でポンド安

7月のポンド相場は対ドル・対円でポンド安が進んだ。新型コロナウイルスの感染拡大や利上げ観測の後退がポンド売りにつながった。1-3月期の国際収支を見ると、経常収支の赤字幅は20年10-12月期に比べて縮小した。サービス収支の黒字幅の拡大が主な要因。

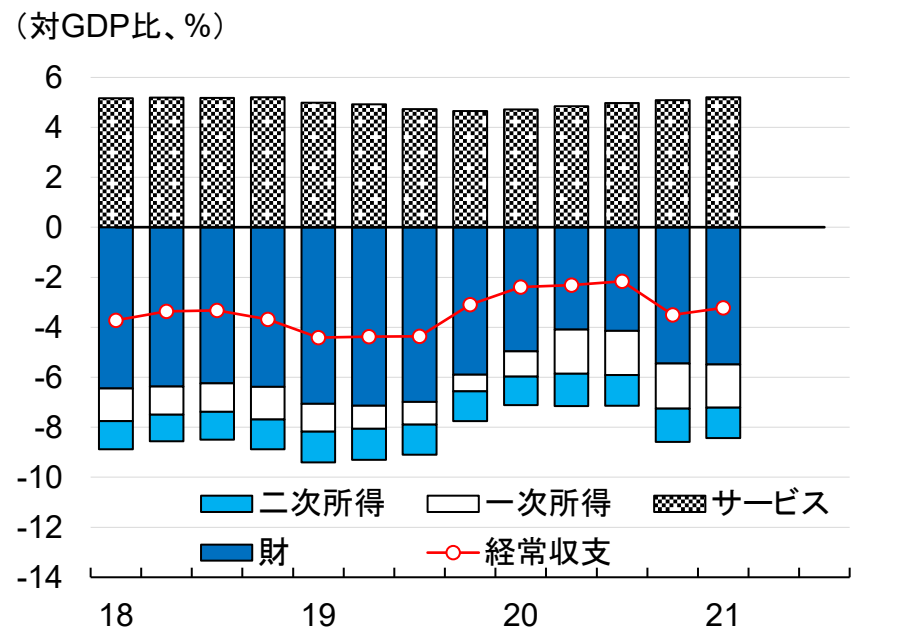
ポンド相場



(注)週次レート
(出所)BOE

(年、月)

国際収支



(出所)ONS

(年、四半期)

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください